

果樹病虫害発生状況（9月上旬）

1 リンゴ

(1) 斑点落葉病

新梢葉の発生ほ場割合は、全域で平年並でした（図1）。

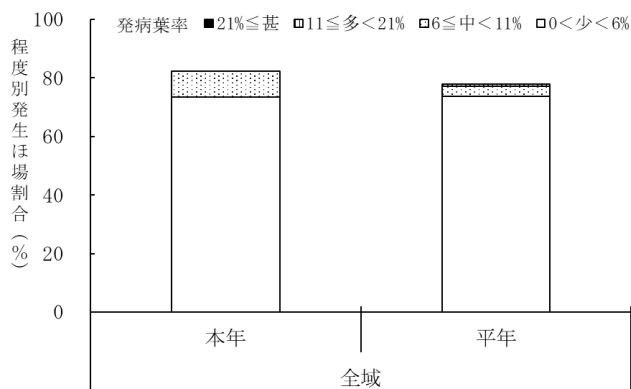


図1 リンゴ斑点落葉病の新梢葉での発生状況

(2) 褐斑病

新梢葉での発生ほ場割合は、全域で平年より高い状況でした（図2）。一部ほ場で、発生程度が高いほ場も確認されました。果実での発生は確認されませんでした。晩生種で発生が多い場合には、特別散布を実施しましょう。

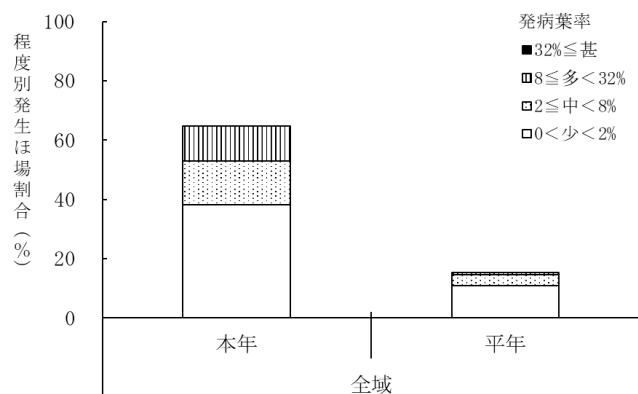


図2 リンゴ褐斑病の新梢葉での発生状況

(3) 輪紋病

果実での発生ほ場割合は、全域で平年並でした（図3）。

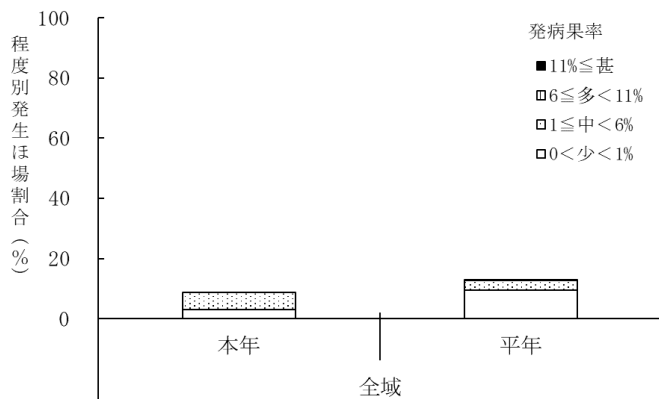


図3 リンゴ輪紋病の果実での発生状況

(4) 炭疽病

果実での発生ほ場割合は、全域で平年並でした（図4）。罹病果は二次伝染源となるため、摘除し園外に持ち出すなど、適切に処分しましょう。

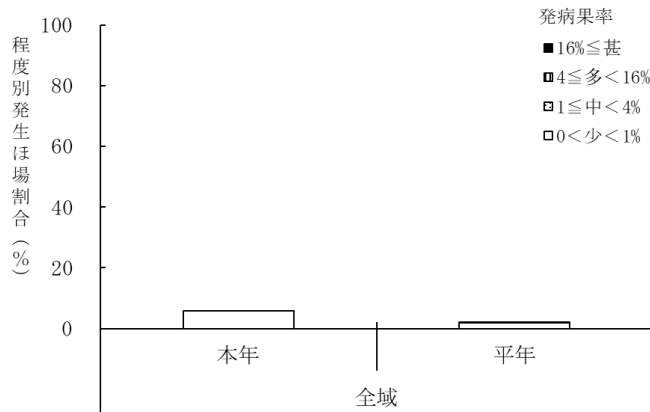


図4 リンゴ炭疽病の果実での発生状況

(5) カメムシ類

果実での被害発生ほ場割合は、全域で平年より高い状況でした（図5）。中通り南部の一部ほ場で、発生程度の高いほ場が確認されました。

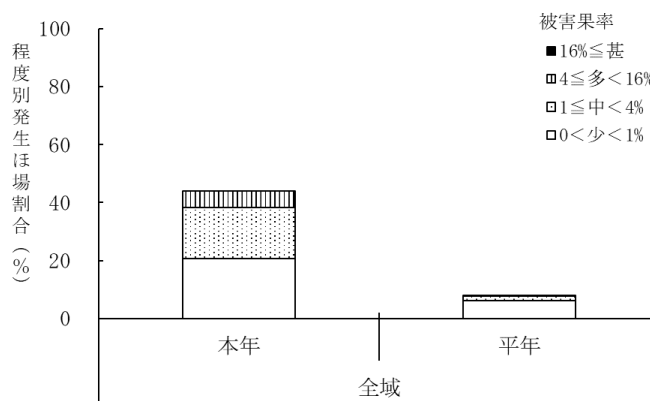


図5 カメムシ類の果実での発生状況

(6) ハダニ類

新梢葉での寄生ほ場割合は、全域で平年より高い状況でした（図6）。会津の一部ほ場で、寄生頭数の多いほ場が確認されました。

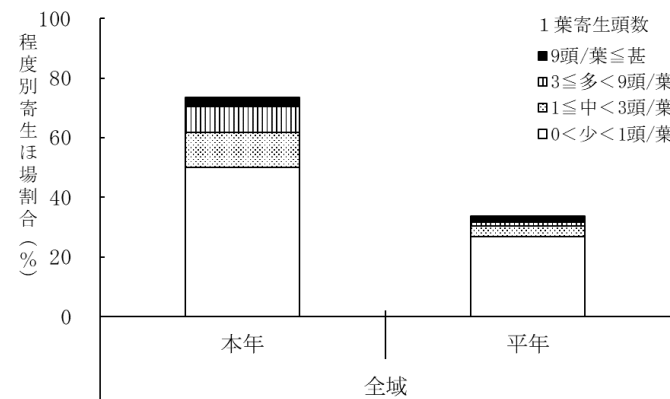


図6 ハダニ類の新梢葉での寄生状況

2 モモ

(1) せん孔細菌病

新梢葉での発生ほ場割合は、全域で平年よりやや高く、発生程度が高いほ場が多くみられました（図7）。今後の発生拡大防止のために、秋期防除を徹底するとともに、発生が多い園地では次年度に向けて、防風ネットの設置などを検討しましょう。

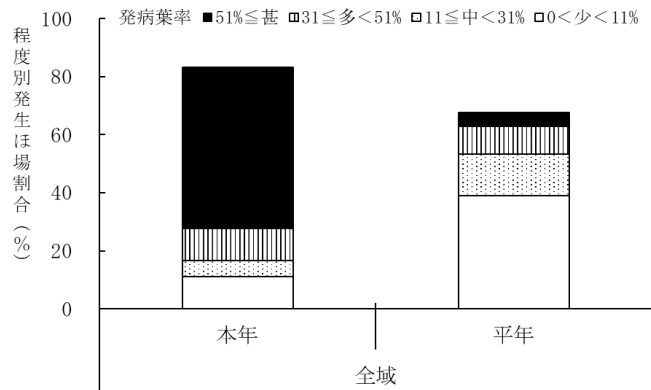


図7 モモせん孔細菌病の新梢葉での発生状況

(2) コスカシバ

寄生ほ場割合は、全域で平年よりやや低い状況でした（図8）。

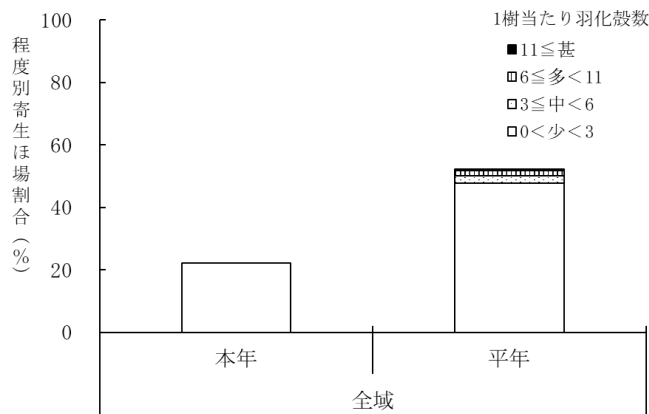


図8 コスカシバの発生状況

(3) ハダニ類

新梢葉での寄生ほ場割合は、全域で平年よりやや高い状況でした（図9）。

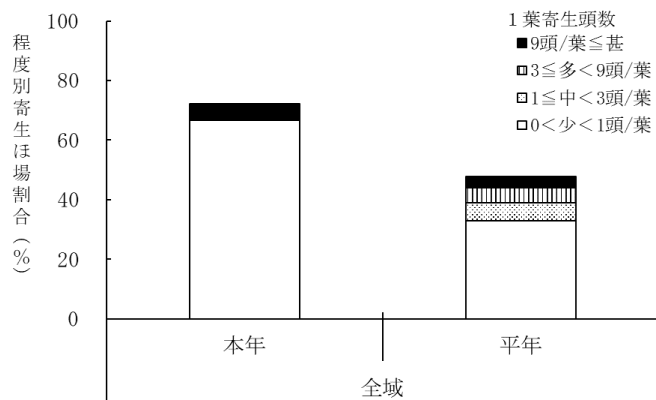


図9 ハダニ類の新梢葉での寄生状況

3 ナシ

(1) 黒星病

新梢葉での発生ほ場割合は、全域で平年より高い状況でした（図10）。果実（豊水）での発生ほ場割合は、全域で平年並でした（図11）。秋期防除や落葉処理等を徹底し、病原菌の越冬密度低下を図りましょう。（注意報第8号参照）

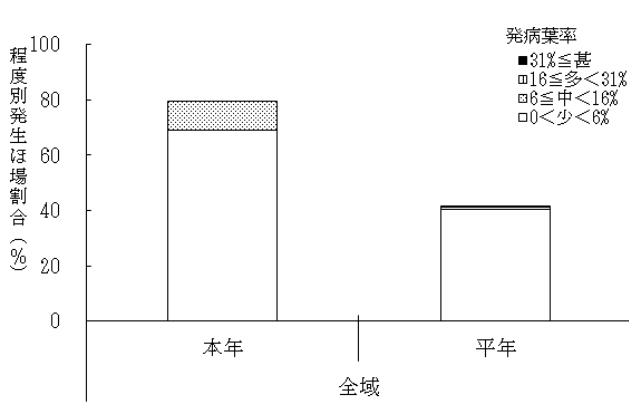


図10 ナシ黒星病の新梢葉での発生状況（幸水）

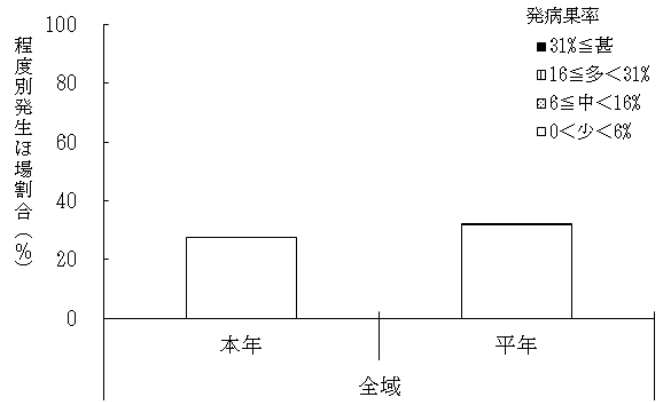


図11 ナシ黒星病の果実での発生状況（豊水）

(2) カメムシ類

果実（豊水）での果実被害の発生ほ場割合は、全域で平年より高い状況でした（図12）。

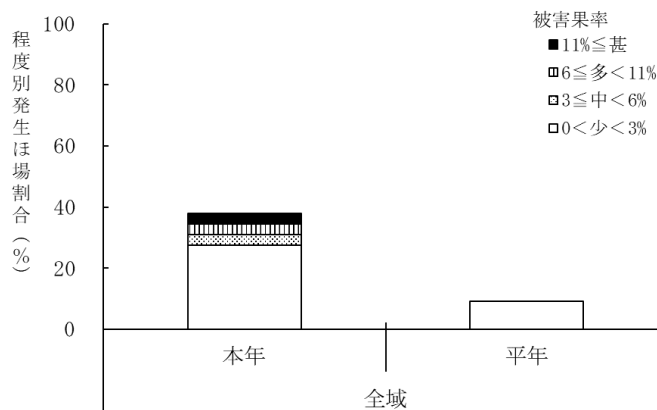


図12 カメムシ類の果実での発生状況

(3) ハダニ類

新梢葉での寄生ほ場割合は、全域で平年より高い状況でした（図13）。

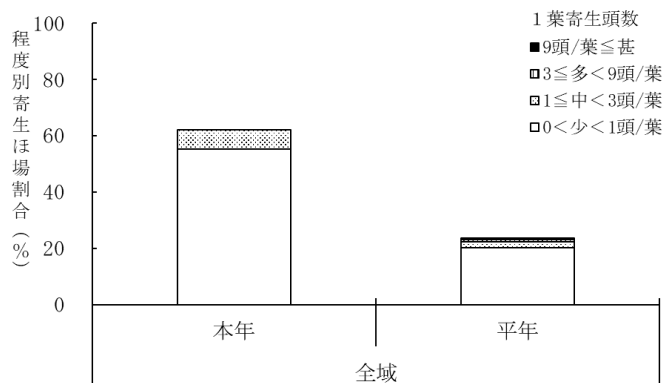


図13 ハダニ類の新梢葉での寄生状況